

アンケート結果報告

アンケート実施内容

- ・対象者：平成20年中に新たに登録したみやぎ食の安全安心消費者モニター 194名
- ・回答者数：163名
- ・回収率：84.0%
- ・調査実施期間：平成20年1月から12月まで

アンケート対象者属性

60歳以上の占める割合（34.4%）は高いが、最も食品を消費すると考えられる30代～40代も34.4%と同数である。また、男性が23.3%、女性が76.7%を占める。

・年代別内訳

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	計
5	29	27	45	31	24	1	1	163

・男女構成

男性	女性	計
38	125	163

（単位：人）

アンケート結果の表示について

- ・経常的に消費者動向を量るため、平成15年に一般県民968名を対象として実施した食の安全安心に関するアンケートの調査項目を、消費者モニター登録時に実施する定例アンケートに活用している。よって、アンケート対象者が異なるものの、平成15年の調査結果も含めて比較している。
- ・調査項目により、平成15年のデータと比較できる場合は平成15年と20年の2か年をグラフとして示し、平成15年のデータと比較できない項目がある場合は、平成18年～20年のデータをグラフとして示した。
- ・年齢階層別に集計した結果、50歳未満と50歳以上の回答者で回答結果の傾向が異なる設問については、年齢別（50歳未満と50歳以上の2階層）の集計結果も一部示した。

<結果要約>

1. 食品購入時の行動について

消費者は、食品を購入する際に「安全性」を最も重視する。この傾向は、年々強くなってきている。また、「産地」重視も少しずつ増加している。「新鮮さ」を重視する割合は多いものの、例年と比較すると減少傾向にある。

2. 表示の確認度と食品表示に不満を感じること

消費者は、食品購入の際に「消費期限・賞味期限」と「原産国や原産地」を確認し、次に「原材料」を確認して購入している。「原産国や原産地」を確認する人の割合は平成20年に特に増加した。

食品の表示については、「原産地表示がない」、「表示の位置や言葉がまちまち」といった項目に対し不満が多い。

3. 食品の安全性について

食品の安全性に対する不安は、「大いに不安を感じている」割合が大きく増加しており、消費者の食品に対する不安は強くなってきている。特に不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」、「食品添加物」、「無登録農薬の使用や農薬の残留」、「食品表示の偽装」である。

1. 食品購入時の行動

(1) 食品を買うときに重要だと思うこと

問 あなたが食品を購入する際に、特に重要だと思っていることは何ですか？
最も重要だと思うことに ，次に重要だと思うものに をつけてください（ ，
は各1つずつ）。

食品を買うときに最も重要な項目は、「安全性」との回答が68.7%を占め、平成18年、19年より増加している。次いで「新鮮さ」（12.3%）との回答が多く、この項目は平成18年、19年より減少傾向にある。その他の増加傾向の項目は、「産地・メーカー」（8.6%）であり、年々割合が増している（図1）。

次に重要な項目として多いのは、「新鮮さ」（28.2%）であり、次いで「産地・メーカー」、「価格」等である。

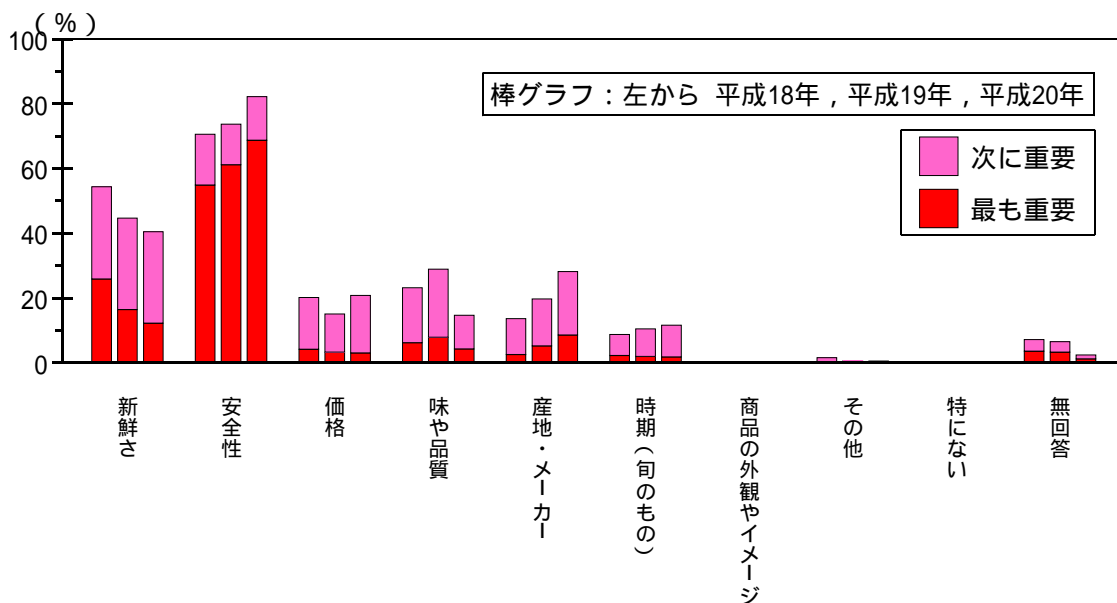


図1 食品を購入する際に重要とする項目

(2) 買い物についての考え方や行動

問 買い物について、あなたの考え方や行動に特によくあてはまるものをお選びください（は3つまで）。

買い物をする際に「安全性に配慮した食品かどうか重視する」、「価格が品質や新鮮さ等に見合っているか検討する」、「多少価格が高くても外国産よりも国内産の食品を買う」の回答を選んだ人の割合がそれぞれ60%を超え、そのほかの項目と比較して高い回答率である（図2）。年齢別では、50歳未満と比較すると50歳以上では「安全性に配慮した食品かどうか重視する」、「多少価格が高くても外国産よりも国内産の食品を買う」、「環境保護に配慮した食品かどうかを重視する」が多い傾向である（図3）。

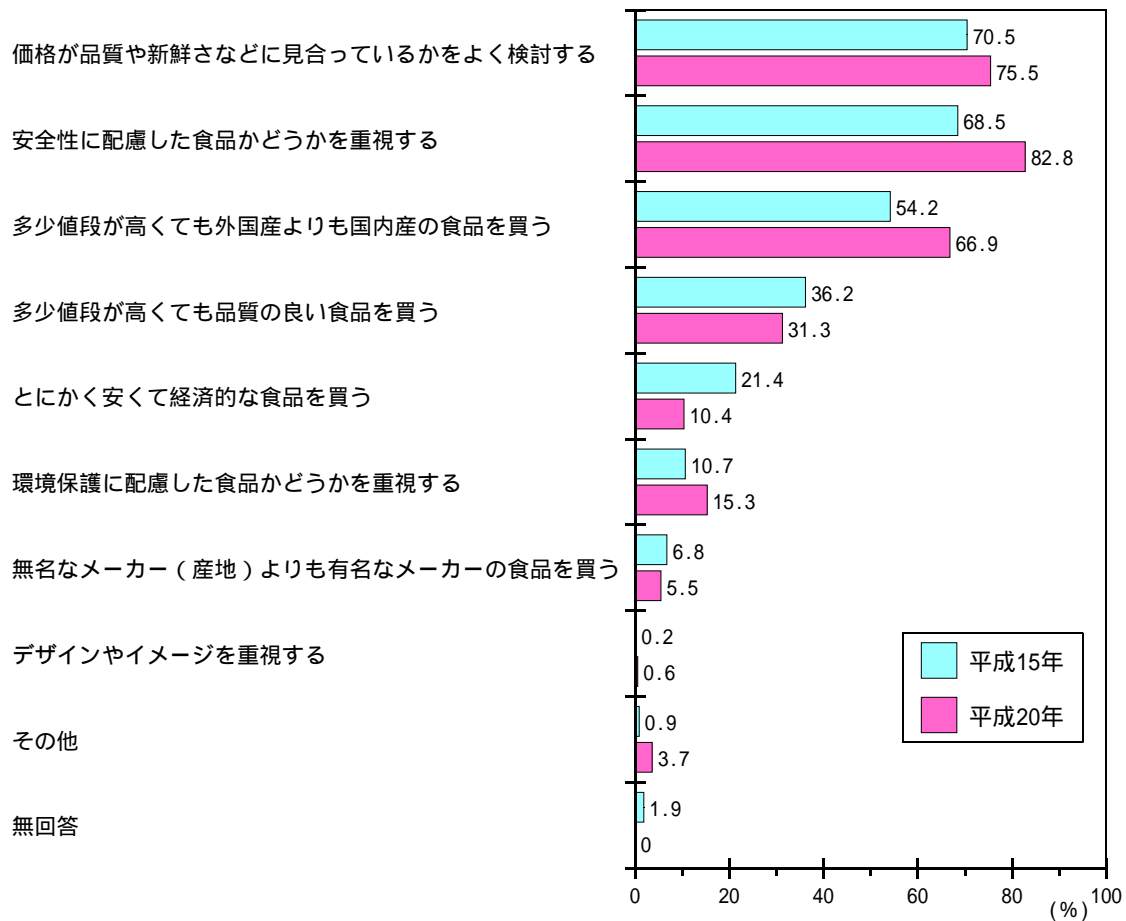


図2 買い物についての考え方や行動

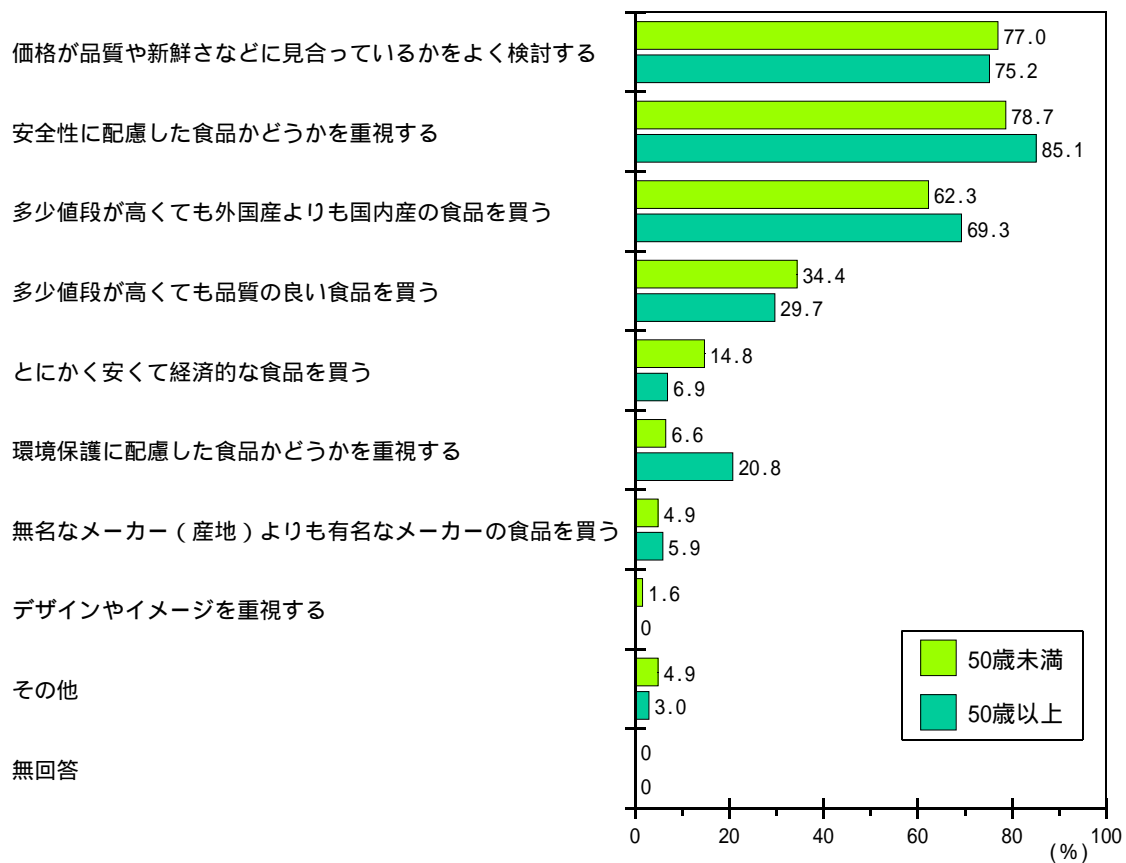


図3 買い物についての考え方や行動（平成20年・年齢別）

2. 表示の確認度と重視する点

(1) 食品表示の確認頻度

問 食品の購入時に、以下の表示についてどのような確認をしていますか？

イ 消費期限、賞味期限の日付

消費期限、賞味期限の日付については、平成20年は88.3%の回答者が「たいてい確認している」と回答しており、平成15年より増加している。「どちらかという確認している」をあわせると、ほぼ全ての回答者が消費期限・賞味期限を確認している(図4)。

年齢別では、大きな差は認められなかった(図5)。

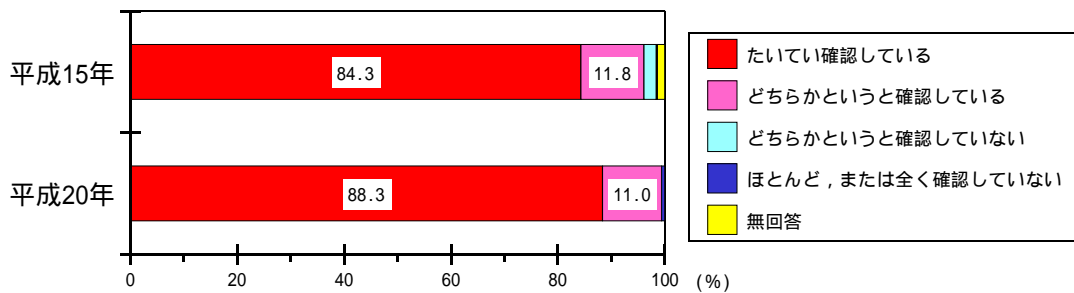


図4 消費期限、賞味期限の日付

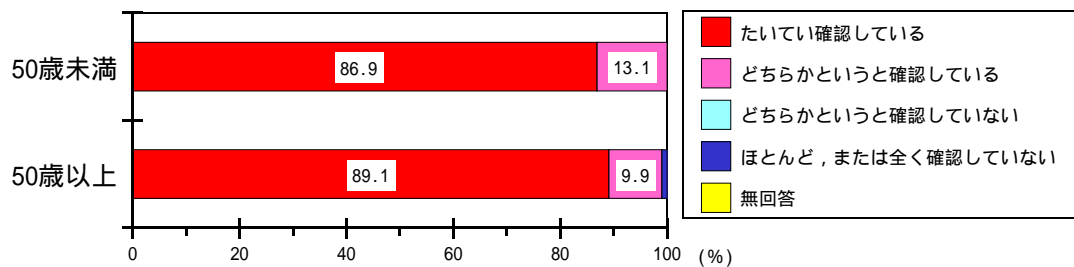


図5 年齢別の消費期限、賞味期限の日付(平成20年)

ロ 原産国・原産地や製造者の情報

原産国・原産地や製造者の情報については、平成20年は85.9%の回答者が「たいてい確認している」と回答し、平成15年と比較して20ポイント以上と大幅に増加しており、「どちらかという確認している」をあわせると、ほぼ全ての回答者が原産国・原産地や製造者の情報を確認して購入している(図6)。

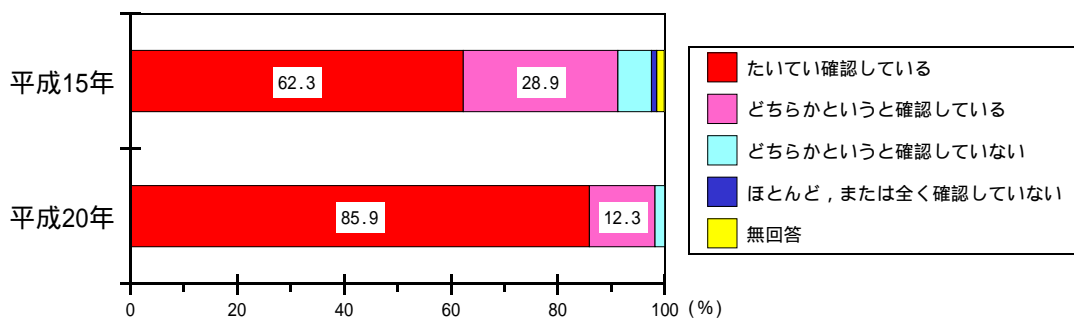


図6 原産国・原産地や製造者の情報

年齢別・50歳以上では「たいてい確認している」と回答した割合が特に高い（図7）。

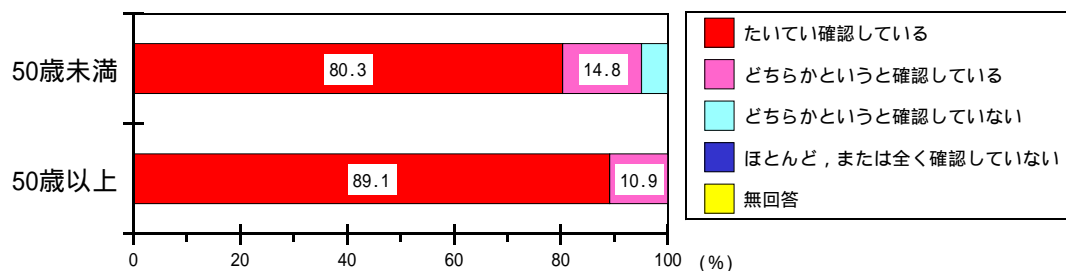


図7 年齢別の原産国・原産地や製造者の情報（平成20年）

八 原材料（食品添加物の使用やアレルギー物質、遺伝子組み換え食品等の有無など）

原材料（食品添加物の使用やアレルギー物質、遺伝子組み換え食品等の有無など）の情報については、平成20年は49.7%の回答者が「たいてい確認している」と回答している。「どちらかという確認している」を合わせると、88.4%が原材料を確認して購入しており、平成15年と比較すると増加している（図8）。

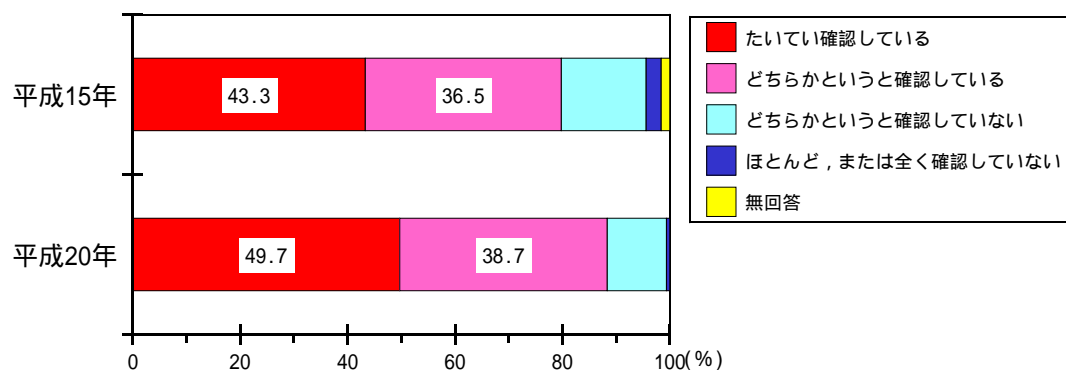


図8 原材料の情報

年齢別では、50歳以上で「たいてい確認している」割合が高い（図9）。

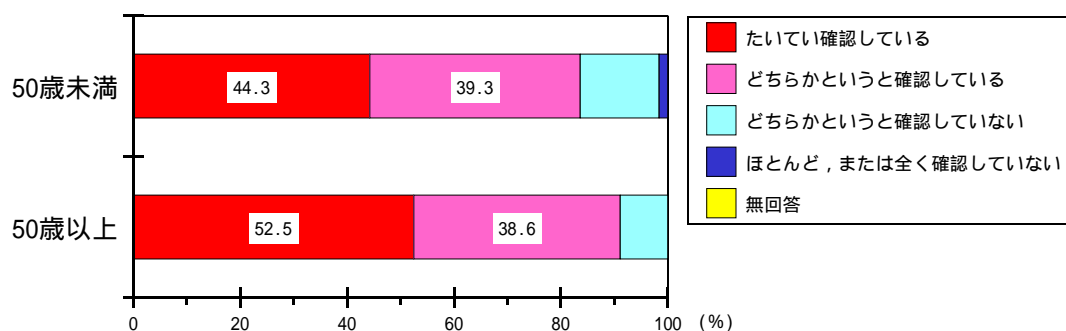


図9 原材料の情報(平成20年・年齢別)

以上のことから、消費者モニターは、食品購入の際には「消費期限・賞味期限」と「原産国や原産地」を確認し、次に「原材料（食品添加物の使用やアレルギー物質、遺伝子組み換え食品等の有無など）」を確認して購入している。

また、「原産国や原産地」を確認する人の割合は平成20年に特に増加しているため、いかに関心が高まっているか認識できる。

(2) 食品表示への不満

問 日ごろ、食品表示について不満を感じることはありますか？（は5つまで）

食品の表示については、「原産地表示がない」についての不満が最も多く、次いで「表示の位置や言葉がまちまち」が多い（図10）。

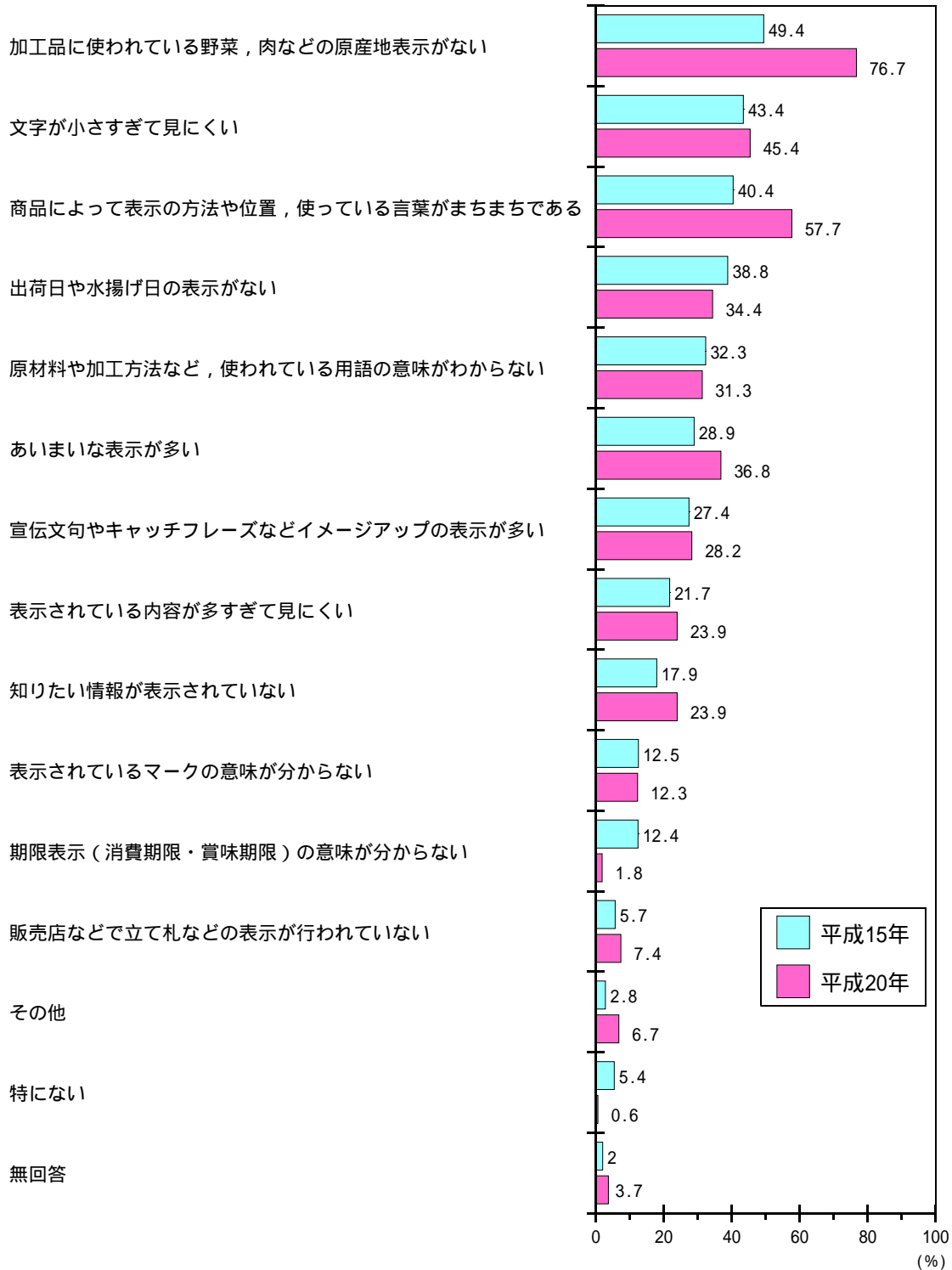


図10 食品表示についての不満

年齢別では、50歳以上は50歳未満よりも「文字が小さすぎて見にくい」、「表示されている内容が多すぎて見にくい」、「知りたい情報が表示されていない」といった項目について不満を感じている割合が多い（図11）。

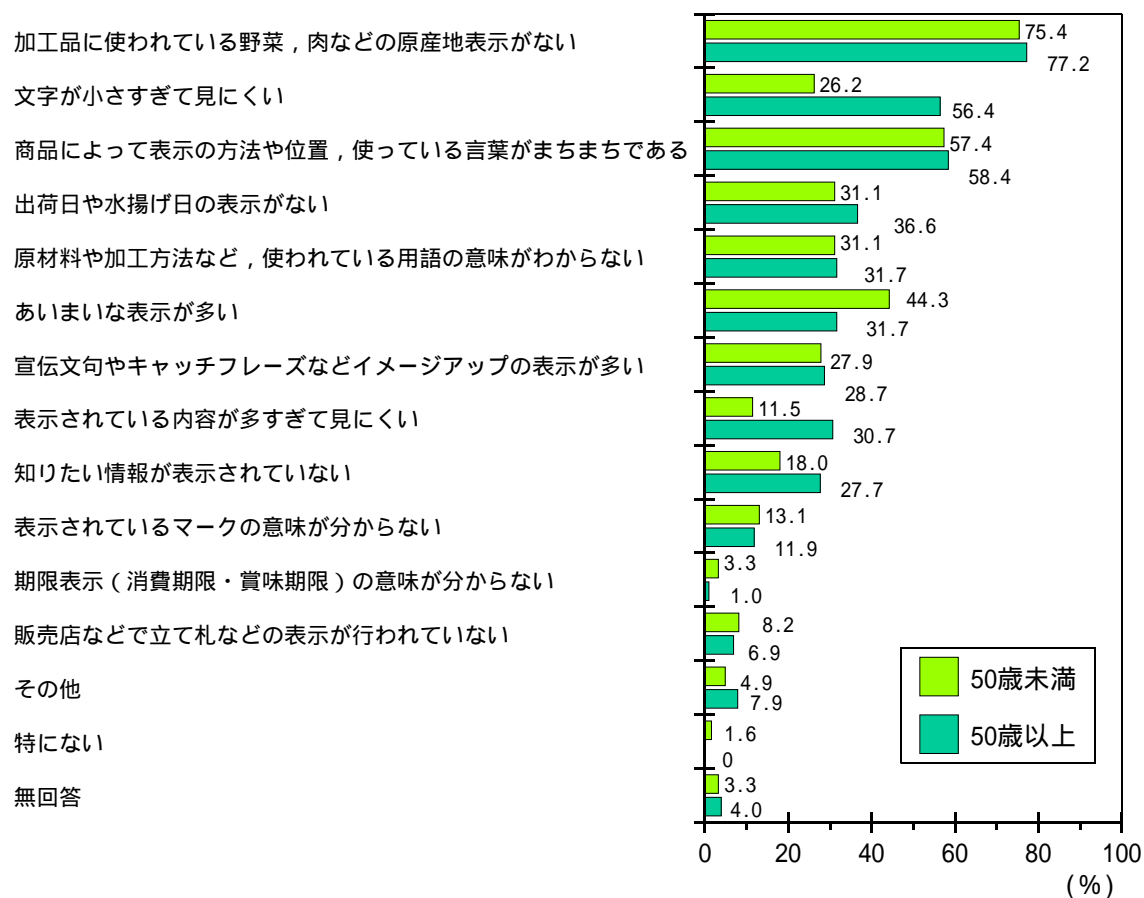


図11 食品表示についての不満（平成20年・年齢別）

3. 食品の安全性について

(1) 食品の安全性に対する不安感

問 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか？（は1つだけ）

食品の安全性に対して、「大いに不安を感じている」と回答者数が大きく増加しており、「不安を感じていない」の回答者はいなかった（図12）。「大いに不安を感じている」割合は、平成19年（36.2%）と比較しても増えており、食品に対する不安は強くなってきている。

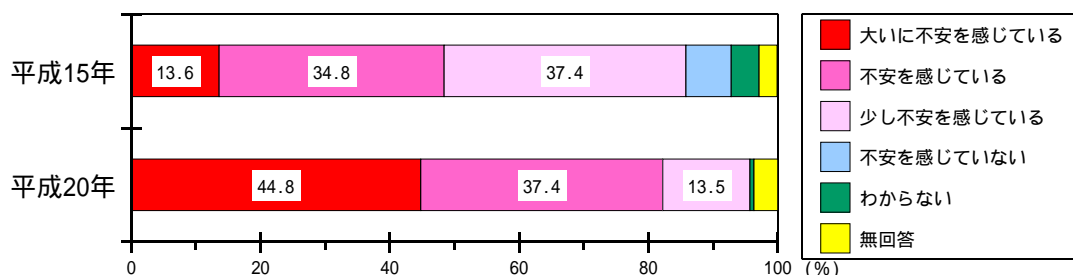


図12 食品の安全性に対する意識

(2)特に不安を感じる項目

問 特に不安を感じていることは何ですか？（ は5つまで）
前問で不安を感じていると答えた方のみ記入

項目別で比較すると、「輸入食品の安全性」、「食品添加物」、「農作物への無登録農薬の使用や農薬の残留」、「食品表示の偽装」について、60%以上の消費者モニターが不安を感じており、また、平成15年より割合が増加している。特に「輸入食品の安全性」、「食品表示の偽装」、「食品の異常」は10ポイント以上増加しており、近年、不安感が強まっている。

その一方で、「遺伝子組み換え食品」、「BSEなどの家畜の疾病」、「抗生物質の使用」、「アレルギー物質の含有」等は減少している（図13）。

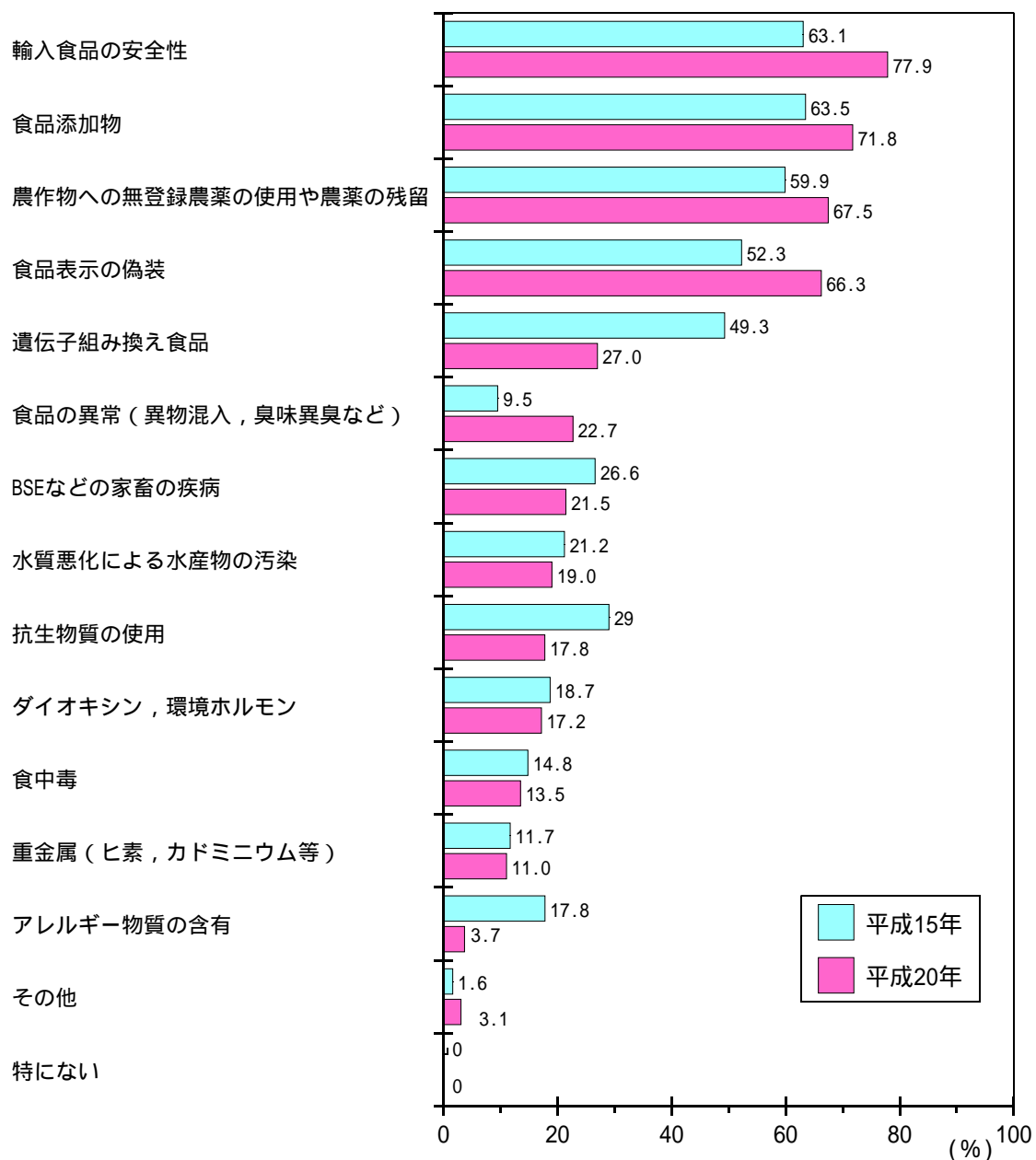


図13 特に不安を感じていること